

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 ジュエリーデザイン科) 2022年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ジュエリー概論	ジュエリー・アクセサリーに関する様々な知識を深め、業界や流通の仕組みを理解する。専門企業等の見学などを取り入れ、より専門的な知識を習得する。	1・前期	30	1	○			○		○		
○			ジュエリー素材論	ジュエリー・アクセサリーで使用される各種素材の知識、理解を深める。各素材の専門企業等による特別講義、見学なども取り入れ、より専門的な知識を習得する。	1・前期	30	1			○	○		○		
○			ジュエリーデザインⅠ	ジュエリーにおけるデザインワーク、コンセプトプランニングの演習により、インプット力、アウトプット力の強化およびデザイン発想力の向上。	1・通年	60	2			○	○		○		
○			ジュエリー制作実技aⅠ	ジュエリー制作におけるワックス素材の扱いと基礎的技法の習得および用具の扱い方を制作実習にて習得する。ジュエリーにおける金属加工のための技法、及び技術の習得。	1・通年	120	4			○	○		○		
○			ジュエリー制作実技bⅠ	ジュエリーにおける金属加工のための技法、及び技術の習得。	1・通年	90	3			○	○		○		
○			ジュエリー商品企画演習Ⅰ	ジュエリー・アクセサリー商品取り扱い店舗における市場調査によるショッパ研究、定点観測に基づく商品計画。	1・後期	30	1		○		○		○		
○			コスチュームジュエリーⅠ	コスチュームジュエリーに関する情報と一般知識の習得。ジュエリーにおける金属加工のための技法、及び技術の習得。アクセサリー制作における各種素材の研究と加工技術の習得。	1・通年	120	4			○	○		○		
○			自由研究	通常授業以外での作品やレポート制作を通し、学生個々がレベルアップすることを目標とする。ジュエリー市場の調査・研究	1・通年	60	2			○	○		○		
○			服飾造形	服飾造形としての一般知識、原型の作図方法、縫製の基礎を理解させる。衣服制作をとおして衣服の構造を理解し、ファッション衣料としてのテキスタイルを関連させ指導する。衣服造形の基礎、服飾造形概説、シャツブラウスの基礎知識・縫製	1・前期	60	2			○	○		○		

○			ハンディクラフト	<p>各種のクラフトテクニックを、エンブroidアリーと布の加工に大別し、基礎的なテクニックを幅広く学習する。特に、帽子・バッグ・シューズ・アクセサリ等のグッズ制作に、応用することをイメージしながら実習させる。併せて、学習したテクニックが使われている実際の商品などの資料を集め、ブックの形式で完成させる。それにより、テクニックだけにとられない応用性を身につけさせる。</p>	1・通年	60	2				○	○		○				
---	--	--	----------	---	------	----	---	--	--	--	---	---	--	---	--	--	--	--

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 ジュエリーデザイン科) 2022年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
○			造形演習	ファッショングッズの各専門分野において必要とされる造形感覚、審美眼の育成と造形・デザインの展開とその方法論の享受を教育目標とする。一般的な造形・デザインに対するの基本的理解と造形能力を高めるために重要な理論的解釈、また、造形言語と呼ばれる表現要素の認識とその利用方法の理解と探求を通じ、独自の表現に昇華する事を目標とする。	1・通年	60	2			○	○		○			
○			デッサン	モチーフを実際に観察して描く訓練を重ねることで、デザインイメージを他者に伝える為の基本描写能力・表現能力の習得を目的とする。デザイン画の前段階として、モチーフの構造を透視化する力・線や面による立体表現・質感表現を学び、それらの大切さを理解する。	1・通年	60	2			○	○			○		
○			ファッショングッズデザイン画	ファッションデザイン画としての人体プロポーションを理解し、頭部、胸部、手を中心としたコスチュームジュエリーの描き方を習得する。また、ファッショングッズをメインとした衣服とのコーディネート(着装)も学ぶ。	1・通年	60	2			○	○			○		
○			色彩論・演習	ファッション分野のクリエイションで色彩を活用することを想定し、基本的な配色方法を中心に色彩の基礎を学習する。	1・前期	30	1	○				○		○		
○			西洋美術史	西洋美術の歴史を通して、様々なアーティストの技法や思想、そしてその時代から見える制約や影響などをどのように作品に反映してきたかを考察する。	1・後期	30	1	○				○		○		
○			服装解剖学	解剖学的な人体の構造を衣服パターンやアイテム構造と関連づけながら理解させ、美的で機能的なアイテム製作に必要な人体(骨格)に関する基礎知識を学習させる。人体を外観から観察し、形態やプロポーションを認識させる。	1・前期	30	1	○				○		○		
○			デザインプランニング演習	デザイン発想とプレゼン能力の向上を促す社会に必要なアイデンティティの掘り出しを図る。デザインを起こすための情報収集の仕方やデザインコンセプトの固めプレゼンを実戦形式で行う。	1・後期	30	1	○				○		○		

○			染色演習	染色に関する基礎的な知識と技術を、各実習を通して習得し、それをもとにアパレルやアパレル小物の制作に応用展開できる能力を養う。 さらに、染色・加工の観点からテキスタイルについての理解を深めることを目標とする。	1・後期	30	1			○	○		○		
○			ファッションビジネス概論	・ファッションビジネスの基礎知識の理解 ・ファッション産業構造の把握と専門業務の把握による職種選択のための対応	1・後期	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 ジュエリーデザイン科) 2022年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グラフィックワークⅠ	Photoshop・Illustrator初心者を対象とし、Photoshopでは、画像の切り抜き・合成ができるようになることを目標とする。Illustratorでは、マップのレイアウトデザインができるようになることを目標とする。	1・後期	30	1			○	○		○		
○			キャリア開発	学生が志望する就職先に内定するために必要な「就職力」を講義+実習を通して身につけさせる。	1・後期	30	1	○			○		○		
○			特別講義Ⅰ	専門科目、通常科目の他に学外の専門講師による講義や、他分野の講師による講義を通し、幅広い知識を得て視野を広げる。同時に個々の目的とする職能を確認し位置づける	1・通年	60	2	○			○			○	
○			校外研修Ⅰ	学生同士のコミュニケーション、相互理解、親睦を深める。団体行動の規律やマナーを守ることとおして、協調の精神を養う。学外の美術館、博物館等を見学する。見る事で、観察力・想像力を養い、感想を書くことで分析力・言語化力を養う。	1・前期	30	1			○		○		○	
		○	インターンシップⅠ	企業研修を通して、実践の場から業界の仕事を確認するとともに、学校教育では体験できない実務を学ぶ。また、社会人としてのマナーを身につけ、就職に対する意識の向上とともに、就職に結びつける機会にする。	1・通年	30	1			○		○		○	
合計					23科目	1170単位時間(39単位)							

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 ジュエリーデザイン科) 2022年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ジュエリーデザインⅡ	ジュエリーにおけるデザインワーク、コンセプトプランニングの演習により、インプット力、アウトプット力の強化、デザイン発想力の向上およびプレゼンテーション力の強化を行う。	2・ 通年	60	2			○	○		○		
○			ジュエリー制作実技aⅡ	学生の自由な発想を時代の流れに融合し制作の完成度を追求、社会の変化に柔軟に対応する事を目標とする。	2・ 通年	180	6			○	○		○		
○			ジュエリー制作実技bⅡ	ジュエリー制作におけるワックス素材の扱いと基礎的技法の習得。ジュエリー制作における用具の扱い方を制作実習にて習得する。 ジュエリーにおける金属加工のための技法、及び技術の習得。	2・ 通年	60	2			○	○		○		
○			ジュエリー商品企画演習Ⅱ	ジュエリー・アクセサリ商品取り扱い店舗における市場調査によるショップ研究、定点観測に基づく商品計画。	2・ 前期	30	1			○	○		○		
○			ジュエリー商品制作演習	・学生の自由な発想を時代の流れと融合させ、時代の変化に対応できる力を身に付ける ・デザイナーの仕事、職人の仕事に対する理解を深める	2・ 後期	30	1			○	○		○		
○			コスチュームジュエリーⅡ	コスチュームジュエリーに関する情報と一般知識の習得およびアクセサリ制作における各種素材の研究と加工技術の習得。	2・ 通年	60	3			○	○		○		
○			メタルワーク(よせもの)	ファッションと親和性の高いスワロフスキー・クリスタルを使ったコスチュームジュエリーをデザイン、製作するための知識と基礎的な「よせもの」技術を、座学と実技により指導。 ファッショングッズ分野においても活用できる、デザイン企画やデザイン手法を習得。また、製作現場とのコミュニケーションを図る事が出来る程度の、基礎的知識と技術の体得。	2・ 通年	60	2			○	○		○		
○			レンダリング	ジュエリー表現の習得、個々の特性を引き出す創作デザイン考案、デザインワークの強化。 企画力と就職活動に活用できる作品集への課題構成を目指す。	2・ 通年	60	2			○	○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 ジュエリーデザイン科) 2022年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グラフィックワークⅡ	グラフィックワークⅠ修了者を対象として、Photoshopでは、連続柄の作成・デザイン画の着色ができることを目標とする。Illustratorでは、ペンツールでオリジナルデザインが描けるようになることを目標とする。	2・通年	60	2		○				○		
○			ファッションマーケティング	・マーケティングの基本を学び、市場の細分化とその特徴を理解する。 ・マーケティングのプロセスにそって、市場に適合したブランド設計を行い、目的を実現させるための戦略について学ぶ。	2・通年	60	2	○				○		○	
○			造形デザイン	ファッション工芸科の各分野において必要とされる立体造形に関する感覚を養成し、広く様々な造形経験を通じて、造形的なセンスと構成力を研鑽することが教育目標となります。一般的な造形・デザインから発展した様々な造形行為への理解を基調に、追体験と実験的製作を通して個人の主張する表現が遂行出来ることを目標とします。	2・通年	60	2			○	○			○	
○			西洋服装史	古代から近世18世紀までは、その時代背景を踏まえ美術史や映画によって服飾を解説していく。19世紀近代以降は、パリオートクチュール・ビジネスが確立し、ファッションが産業化していく過程を解説する。20世紀以降、デザイナーの時代が始まり、合わせてデザイン史、音楽史、映画史などにも触れながら、多方面からファッション史の理解を深める。	2・前期	30	1	○				○		○	
○			アートフラワー	各課題ごとに各種素材の把握と扱い、用具の自由な使い方など広く盛り込み、アートフラワーの基本的な知識と技術を実習により習得。専門分野に於いて活用できるレベルを目指す。簡単なことながらも工夫次第で様々なモノ作りの場に於いていけるような応用力、発想の豊かさを大切に楽しんで、又心動かしつつ創作していける力がつくよう指導。	2・前期	30	1			○	○			○	

○		現代ファッション論	現代において国際的に流通している“ラグジュアリーブランド”は、流行を牽引するだけでなく、全世代の強い憧れの的でもある。それらには長い歴史があり、時代の流れを読みながら発展してきたブランドがほとんどだ。さらに21世紀に向けて環境問題と向き合い、“サステナブルファッション”を提案するブランドも数多い。この講座では著名なラグジュアリーブランドの成り立ちと現在の動向、そして未来への展望を掘り下げる。	2・後期	30	1	○			○		○		
	○	英会話	初級程度の英文法を学んだ学生を対象に、文法の復習と口頭でのアウトプットを主な目標とする。ファッションを専攻している学生を対象としているため、ファッション関連の語彙を増すこと、ファッション関連の表現に接することにも重点を置いたプログラムとしている。レベルは初級（中位）から中級まで。	2・通年	60	2	○			○		○		
○		特別講義Ⅱ	多方面にわたる講師の講義を通して、広い視野と高い専門性、豊かな人間性について学ぶ。	2・通年	30	1	○			○		○		

授業科目等の概要

(ファッション工芸専門課程 ジュエリーデザイン科) 2022年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			校外研修Ⅱ	企業訪問、工場見学、美術工芸品の見学や歴史的文化にふれることにより、感性を磨き豊かな創造性と深い知識を養う。	2・前期	30	1			○		○	○		
		○	インターンシップⅡ	企業研修を通して、実践の場から業界の仕事を確認するとともに、学校教育では体験できない実務を学ぶ。また、社会人としてのマナーを身につけ、就職に対する意識の向上とともに、就職に結びつける機会にする。	2・通年	30	1			○		○	○		○
○			卒業研究・創作	各自が研究テーマを設定し企画デザイン創作する。また、展示発表を通して企画、運営方法とチームワークの重要性を学ぶことを目標とする。	2・後期	120	4			○	○		○		
合計					18科目	1080単位時間		(36単位)							
総合計					41科目	2280単位時間		(76単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：最終学年の修了、卒業必須単位数の取得	1学年の学期区分	2期
履修方法：単位の取得、出欠席状況、課題提出・試験などにより評価をうけ修了すること	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。